

## 伝統を受け継ぐためには

村上市立岩船中学校 2年 吉村 駿斗

僕の周りには地域の伝統行事を楽しみにしている人が大勢いる。僕もその伝統行事を楽しみにしている一人だ。僕を楽しみにしている伝統行事は「岩船大祭」という。新潟県の無形民俗文化財にも指定されている。約五百年以上も前から続く、歴史のある祭りである。小さい頃から、僕はこの祭りに参加することをとても楽しみにしていた。なぜかといえば町内の「おしゃぎり」と呼ばれる山車に乗れる学年が小学4年生からと決まっていたからだ。ようやくその思いが叶って、「おしゃぎり」と一緒に町内をたくさん子どもたちと歩いたことは、このうえない嬉しさでいっぱいだった。そのことから、僕は「岩船大祭」への思いは強いのである。

中学生になった今では、この思いがさらに強くなってきている。中学生は、祭りで演奏する場面や使える楽器も増えて、より華やかな祭りの場面に自分が参加できるようになる。そのためにさらに強い関心をもつようになった。それで、インターネットや本などで祭りについて調べてみると、祭りの在り方について考えさせられたのである。自分の住む地域の祭りについて、楽しむ気持ち以外に、祭りへ敬意をもって参加しなければならないのだと感ぜられるようになった。

そんなとき、ある光景が目にとまった。小学生の頃には何気なく目にしていたが何とも思わなかったこと。祭りに来ていた友人たちの行動であった。岩船大祭の目玉の一つである、「おしゃぎり」には全く関心が無く、さらには、あちこちでだらしなく座りながら、露店で買った食べ物を食べ散らかしている姿。祭りなど関係が無いかというかのように大騒ぎをしている。辺りを見回すと、友人たちだけでなく同じように祭りの雰囲気をつぶしてしまおう行動をとっている人たちが、大勢いたのだ。

祭りに対する思いは人それぞれである。雰囲気を楽しむことは悪いことではない。楽しい雰囲気から気持ちが高まって騒いでしまいたい気持ちも分かる。ただ、私たちの身近にある「岩船大祭」とはどんな祭りなのか、もう少し関心をもって見てもいいのではないだろうか。

そこで、僕はこの祭りの意義について調べてみた。この祭りは「海上安全」「大漁満足」「五穀豊穰」「商売繁盛」などが祈願されている。御神輿に移された神様が「おしゃぎり」とともに町を歩く。とても神聖で厳かな神事なのだ。だからこそ、騒ぐだけの行動が残念に思えたのである。

僕は「このままでは本当の意味で伝統を引き継ぐことはできない」と感じた。自分も含めて薄れつつある祭りの意義を、改めて意識しなおして参加することが大切であると思った。

そうはいっても、一年中、祭りだけを考えて生活することは難しい。祭りについて学んだり、神社にお参りに行ったりするなど、毎日心がけることもなかなかできないことだと思う。では、一体どうしたらよいのだろうか。僕は「祭り」が来ることを素直に喜び、「おしゃぎり」に関心をもったり、各町内の取組を自然に話し合えたりする雰囲気が生まれるようになればいい。

祭りに参加するということは、「伝統を受け継ぐこと」だと思う。それは、祭りを意識して迎え、思いを馳せることである。例えば、伝統を感じながらお囃子を演奏したり、神様を敬う気持ちをもちながら、「おしゃぎり」を引いたりする。他にも、「おしゃぎり」に関心をもったり、祭りのお囃子や笛の音色に耳を傾けたりすることなども考えられる。祭りへの向き合い方は人それぞれだけど、ただ友人と騒いで楽しむだけでなく、祭りへの関わり方を考えることが、伝統を引き継ぐことに結びつくと思う。祭りの中で得られる地域の人々の思いに触れながら、僕もその中の一員としての思いを大切に生活していきたい。